

記事を読んで、問いに答えなさい。
解答は裏面に記すこと。

2021年 1月6日朝刊

「直接触れて味わえる彫刻を視覚障害者にも快適に楽しんでもらいたい」。飯野隆常務が導入への思いを明かす。同美術館は屋外の展示品に触れられ、「触る」作品鑑賞を通して誰もが楽しめる環境整備に取り組んでいる。2021年秋には触察の展示会も開催予定。ただ、美術館の景観を損なうために点字ブロックの設置が難しく、目の見えにくい人が安全に館内を巡る誘導方法に課題があった。

ナビレンスは、印刷したタグをスマートフォンで読み込むと登録した情報が音声で再生される仕組み。読み取り角度は160度と広角で、20センチ四方のタグならば15センチ程度離れた場所から認識できる。館内の順路や作品付近にタグを貼っておけば、視覚障害者でもスマートフォンをかざしながら歩くだけで、進行方向や

長泉町のヴァンジ彫刻庭園美術館が、視覚障害者への情報提供と移動支援を目的としたシステム「ナビレンス」の導入に向けた準備を進めている。日本の美術館で初という。関係者は「目の見えにくい人も安心して芸術を楽しめるユニバーサルミュージアムの実現を目指す」と意気込む。

触る彫刻鑑賞 音声で誘う

長泉・ヴァンジ美術館 アプリ導入へ



「視覚障害者も快適に」

壁までの距離、展示品の概要などの情報が得られる。すべての来館者に展示品の説明を聞くツールとしても活用してもらおう。

沼津市内の視覚障害者12人を招いた実証実験を実施。スマートフォンを片手に散策した大胡田裕さん99は「情報を提供してくれるだけで楽しさが増す。商店街など公共施設にこのシステムがあればうれしい」と期待する。一方で「一度順路をそれると戻れない」と改善を続けていく」と話す。

（東部総局・大石真聖）



ナビレンスで視覚障害者を誘導した実証実験。参加者はタグ（右下）をスマートフォンのアプリで読み込み、音声に従って散策した
＝2020年12月下旬、長泉町のヴァンジ彫刻庭園美術館

Q ナビレンス スペイン発祥のナビゲーションシステム。QRコードのような正方形のタグをスマートフォンのアプリで読み込み、現在位置や周辺情報などを音声で伝える。一つのタグで、読み取る方向によって4種類の情報を伝達できる。適切な間隔で配置することで視覚障害者を音声で目的の場所に誘導できると期待される。スペインでは地下鉄やバス停、博物館など公共施設で導入。

- ①視覚障害者が芸術を鑑賞する際に役立つAIアプリを、高校生の自由な発想で考察せよ。
- ②「触る」作品鑑賞の次の段階として、どのような芸術鑑賞方法が考えられるか、考察せよ。
- ③外国人観光客の支援ツールとして、どのような情報を、どのように伝えるか、どのようにアウトプットしてもらいたいのか、自分が住んでいる地域をモデルとして考察せよ。

年 組 名前

作問者：NIEアドバイザー 実石克巳（静岡高校 教諭）

（高校／国語）

<参考>①＝情報工学 芸術学に関する問題、②＝芸術学に関する問題、③＝観光学 情報工学 経済学 地域行政学 情報工学に関する問題